

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470600418
法人名	伊勢温泉観光株式会社
事業所名	グループホーム にのみの家
所在地 (電話番号)	津市新野町1488-1 (電話) 059-254-1616
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年4月14日(月)

## 【情報提供票より】 (H19年5月8日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	8 人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 8人	

## (2) 建物概要

建物構造	造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円程度	
敷金	有(120,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

## (4) 利用者の概要(5月8日現在)

利用者人数	25 名	男性	6 名	女性	19 名	
要介護1		7 名	要介護2		9 名	
要介護3		5 名	要介護4		2 名	
要介護5		1 名	要支援2		1 名	
年齢	平均	79.5 歳	最低	51 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中浜胃腸科外科 真弓歯科訪問診療
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

各居室に洗面台とトイレの設置があり、室内の造作は全て木造で樹木の香りのする落ち着いた室内空間である。  
1階ごとに1ユニットを構成し、それぞれに独立したユニットとして活動し、3階までの3ユニットになっている。  
職員は温かく、愛情を持って利用者へ接している。利用者一人ひとりが大切にされ、特に重度の利用者にも心のこもった介護で日々居心地よく暮らせるように支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営者との話し合いが進んでおらず、前回改善項目として指摘された課題が未解決のままの状態であり、離職者も多く出ている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価表は管理者一人の作成であり、提出に当たって職員は知らず、各ユニットごとの職員の話し合いによる作成取り組みにまでは至っていない。運営者と職員への意識づけが望まれる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、まだ開催されていない。運営者の協力が無い、人を集めるのが難しい、開催場所がないなどの種々、開催を阻む要件はあるが、義務づけられた項目であるので、早急な開始に向けての取り組みが望まれる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等へは毎月1回金銭報告とお便りによる報告をしているが、更一人ひとりの暮らしぶりに沿ったきめ細かい報告ができるようなステップアップの工夫を期待したい。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営者と自治会との話し合いができていないため、災害時への不安がある。グループホームの位置づけが地域密着型に変更されたことを重く受け止め、地域との連携を積極的に図り、支援を受けられるような配慮に努めていただくことを希望する。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型を特別に意識した理念ではないが、自立と日常生活の充実を目指し、安心、安全で、利用者と家族の満足が得られるようにとの思いを込めた事業所独自の理念である。	○	地域密着型への法的な移行に伴い、理念もそれに従っての見直しに着手していただくことを希望する。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	掲示はしてあるが、日常的な話し合いの機会はもたれていない。	○	職員個々においては利用者に愛情を持って接しているが、日常の業務に追われて理念を意識して共有しているとは言い難い。職員全体で再確認の上、理念の共有と実践への取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に出た時に花や農作物を頂くなど個々の交流はあるが、自治会費等の問題があり、地域の一員としては地域活動への参加が出来ていない。	○	運営者と自治会との話し合いを早急を実施して、地域の一員として行事参加ができる方向性での位置づけをお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	本社において、運営者と管理者は週に2回定期的に諸般の事項について話し合いを行っている。管理者、職員は日常的に現場で話し合いをしている。	○	運営者はできるだけ現場へ出向き、管理者や職員と共に評価を具体的にいかすよう改善に向けた取り組みを希望したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は一度も開催されていない。	○	人を集めるのが難しい、場所がない、運営者の理解がないなど、障害となる理由は多くあるが、義務づけられていることでもあり、早急に開催へ向けての取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課へは時々行って相談をしているし、市担当課の方からは「出来ることは手伝う」との好意的返事をもたらうなど良好な関係を作り上げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、月1回の「にのみの家」の行事報告を兼ねての写真入りお便りを送付している。金銭管理については明細書に領収書を添付して送付するなど、定期的な報告はしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催はしていないが、家族からの苦情はない。	○	苦情がないということは裏返せば苦情を言いにくい状況を作っていないかという疑問を抱き、見直しをしてみたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員との馴染みを壊さないようにとの配慮からユニット間での異動も行わないようにしているが、離職者が相次ぎ利用者へのダメージが大きくなっている。	○	運営者は何故離職者が相次いでいるのかという根本的な問題を掘り下げた検討をし、また利用者への影響を防ぐ配慮をお願いしたい。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修への参加が全く行われていない。意欲のある職員が個人的に研修を探して自主的に参加をしている程度である。	○	運営者は、いろいろな研修を通して職員全体の力量と質のアップを図る必要があるのと同時に、職員に夢と希望(たとえば資格取得など)を与えてよりよい事業所への発展と継続の礎となるような職員育成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への見学は実施したが、グループホーム協会などネットワークへの参加はしていない。	○	事業所の質の確保のためには同業者との交流は必要不可欠であることを認識して、事例検討会などを開催して欲しい。手始めに、同じ経営下にあるグループホームなどとの交流の開催から取り組みを始めていただくのもよいのではないかとと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	無理やりに入居をしてもらったという人はいないが面会時に話し合ったことを忘れてしまう方もいる。が、一応入居時には理解してもらっていると解釈している。帰宅願望がある人はいるが、一日でも早くホームでの生活に馴染めるよう雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩としての利用者に敬愛の念をもち、共に過ごし支えあう方法として、食事の手伝いをしてもらったりモップかけをしてもらうなど、日々共に関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を把握し、本人の意向に沿うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し介護計画の検討をしているが、家族の参加が困難な場合、出来上がった介護計画書を家族に送付し家族からの印と意見を貰っている。	○	できればケアカンファレンスの前に暮らし方を報告して計画書に反映できるような工夫を望みたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の職員会議をユニットごとに開催しており、その際に利用者一人ひとりについて話し合い検討をしている。介護計画はユニットごとのケアマネージャーが立てて家族に送付、印と意見を貰っている。	○	3ヶ月に一度の見直しはなされているが、職員数減のために話し合いの結果を計画に反映する時間が取れなくて、ノートに書きとめたままの状態になっている。変化を見逃さないように変更があれば随時見直しをして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在3人ほど他事業所等へのデイサービスに通われており、送迎サービスの支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、各ユニット毎に往診してもらっている、ホーム全体では月3回の訪問支援を受けている。救急の場合は24時間相談に応じてもらえる体制は出来ている。それ以外にも個人的なかかりつけ医を希望する人には通院送迎支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアまでは看護師の不在もあり現状ではできないので、終末期を迎えたら病院へ移ってもらうしかない。	○	今後、終末期にどう対応するのかを、運営者を含めた全員で話し合いの機会をもち検討をしていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時に職員規則として全員から個人情報保護についての誓約書もらっている。言葉かけは一人ひとりを大切にプライバシーに配慮した対応をされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手の空いた職員が入居者の部屋を訪問して話し相手になったり、トランプゲームなどの時に声かけをしながら好みや希望を見つけ出す支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者に委託して献立と食材提供を受けているが、味づけは好みになっているので、その日の担当で味が微妙に違っている。また、誕生会などのイベントでは利用者と職員が一緒になって食事作りに取り組んでいる。	○	職員は食事介助に当たるだけで、利用者の食後、職員同士でお弁当を食べている。全員が無理なら順番にでも職員が検食(味見)をかねて共に楽しむ食事をするようにしていただきたい。嗜好調査を行い献立に反映させたいという希望も実践されるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂は沸かしているが、時間帯は午後2時からとなっていて、入浴順を決めている。入浴拒否をされた時には次の日へ回すなどの工夫で入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花や野菜づくり、草取り、トランプや百人一首などの楽しみ、食材が届いた時の仕分けなど、その人がイキイキとして出来ることをやってもらうように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて買い物(衣類や食品など)に行ったりするなどの外出支援をしている。が、大きな車がないためユニット毎・数人がまとまったの外出は難しい。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来る限り鍵をかけないケアに取り組んではいるが、鍵を開けるか閉めるかはその日の入居者の状態によっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自治会長にお願いはしてあるが、消防団との話し合いが出来ていないため、災害時に協力してもらえるかどうか不安である。3階まである建物だが、スプリンクラーの設置はない。本部からの非常用食料も届いていない。	○	亀山地震を教訓にして、地域への協力支援依頼と、避難訓練の継続をお願いしたい。本部からの非常用食料提供についても再度確認して対処をしていただくことを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の記録もあり、栄養バランスは管理栄養士による献立でカロリーは確保できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は狭いながらも壁には鯉のぼりや五月のカレンダー、利用者の写真などが貼られ、季節感が分かるようになっており、心地よく過ごせるようにこの配慮もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ洗面台とトイレが設置され、車椅子使用者の部屋はセンサー感知でトイレ電灯がつくようにしてあるなど使い勝手がよい。本人の好みに応じた絵や家族の写真を貼るなど、馴染みがもてる心地よい居室作りに努めている。		